株式会社佐藤農園

山梨県の「農業の6次産業化」について

平成29年６月22日

代表取締役　プロフィール

1. 氏　　名：佐藤　優一（サトウ　ユウイチ）
2. 生年月日：1966年1月18日
3. 出身校：駿台甲府高校
   東京理科大学 理学部 数学科
4. 資　　格：高校数学教員免許
5. 職務経歴
   日本IBM関連会社　管理本部長代行
   株式会社ユニリタ　総務部長
   株式会社佐藤農園　代表取締役

株式会社佐藤農園　代表取締役　佐藤優一

講義内容

Ⅰ農業の6次産業化

Ⅱ山梨県の農業の6次産業化

Ⅲ株式会社佐藤農園の6次産業化

Ⅳ農業ビジネスの未来像

Ⅰ 農業の6次産業化

産業とは

１次産業

　農業　林業　漁業　鉱業が当て嵌まる。水産加工のように天然資源を元に加工して食品を製造する業種は製造業に分類。

２次産業

　第１次産業が採取・生産した原材料を加工する。日本では製造業　建設業　電気・ガス業　工業が当て嵌まる。

３次産業

　１次２次に当て嵌まらないものが該当する。無形財の小売業とサービス業が当て嵌まる。この産業は商品やサービスを分配することで富を創造することに特色がある。

『農業の6次産業化』とは

農業を1次産業としてだけではなく、加工などの2次産業、さらにはサービスや販売などの3次産業まで含め、1次から3次まで一体化した産業として農業の可能性を広げようとするものである。

「文部科学省認定済教科書（高等学校農業化用）農業経　営」（実教出版）　注：平成26年度から使用

『農業の6次産業化』とは

農業という事に視点をおいて

１次産業（農業）
２次産業（食品加工）
３次産業（流通・販売）

総合機能的にすべてを取りこんだ産業

農業者がすべての産業に関わることによって、加工賃や流通マージン（販売額と売上額の差額）などの今まで第二次・第三次産業の事業者が得ていた付加価値を、農業者自身が得ることによって農業を活性化させようというもの

1次産業×2次産業×3次産業　＝6次産業

『農業の6次産業化』の概念図

１次産業

農産物を生産する

×

２次産業

農産物を加工する

×

３次産業

農産物や加工製品を流通する

＝

１×２×３＝

６次産業

６次産業の流通のしくみ

農協（JA）の流通のしくみ

農家が農協か中央卸売市場に農産物を持っていき流通を委託する

＊矢印は物の流れ

6次産業化のメリットとデメリット

メリット

自身の期待値通りの値段がつけれる

製造流通委託をしなくても良いので経費を抑えられる

独自のブランド形成　ルート開拓が可能となる

エンドユーザー（消費者）の声が直に聞ける

デメリット

全ての工程を自身が行うため負担が大きい

ルートが確立するまでは安定的では無い

Ⅱ山梨県の『農業の6次産業化』について

農商工連携と6次産業化

●農商工連携促進法（平成20年5月 経済産業省）

中小企業者と農林漁業者とが有機的に連携し、それぞれの経営資源 を有効に活用して行う新商品等の開発・販売促進支援を行うことにより、地域を支える中小企業の経営の向上及び農林漁業経営の改善を図ることを目的とする。

「農商工等連携事業計画」の認定→融資・補助等の支援

※中小企業の支援が主体

●六次産業化法（平成23年3月 農林水産省）

地域資源を活用した農林漁業者等による事業の「6次産業化」に関する施策並びに地域の農林水産物の利用の促進に関する 施策を総合的に推進し、農林漁業者等による新事業の創出等を支援することにより、農林漁業等の振興等を図るとともに、食料自給率の向上等に寄与することを目指す。

「6次産業化事業計画」の認定→融資・補助等の支援

※農林漁業者の支援が主体

■6次産業化総合化事業計画の認定要件

★認定を受けるには、次の要件を全て満たすことが必要

◆事業主体

農林漁業者（個人・法人・団体）が行う事業であること（※任意組織も可）

◆事業内容（次のいずれかを行うこと）

ア 自らの生産物をその不可欠な原材料として用いて行う新商品の開発、生産、需要開拓

イ 自らの生産物等について行う新たな販売の方式の導入又は販売の方式の改善

ウ ア又はイに掲げる措置を行うために必要な生産等の方式の改善

◆計画目標

対象商品の売上高が5年間で5％以上増加すること

事業主体の農林水産業の所得が向上し、計画最終年度で黒字化

◆計画期間

３年以上５年以内

■総合化事業計画認定の概要

◆認定件数

平成23年～28年度 20件

◆計画対象の農産物

果 実 13件（ぶどう・モモ・スモモ・柿 → ワイン・ジャム・ピューレ等）

野 菜 2件（やまといも・クレソン → 加工品・菓子）

畜 産 2件（羊・鶏 → ソーセージ・菓子・総菜等）

水産物 1件（虹鱒 → 燻製）

特用林産物 2件（きのこ・こごみ等 → 加工品）

◆国補事業の利用状況（平成28年12月現在）

加工・販売等の施設整備に対する補助金の利用 10件

新商品開発、販路開拓等の補助金の利用 1件

■六次産業化・地産地消法に基づく認定の概要（累計：平成29年4月11日時点）

全国の地域別認定件数

地域		総合化事業計画の認定件数	うち農畜産関係	うち林産物関係	うち水産物関係	研究開発・成果利用事業計画の認定件数
北海道		128	121	3	4	1
東北		341	307	12	22	4
関東		377	341	18	18	11
	山梨県	20	17	2	1	0
北陸		109	104	1	4	1
東海		200	179	9	12	0
近畿		364	333	11	20	2
中国四国		269	219	11	39	2
九州		387	320	26	41	3
沖縄		55	50	1	4	0
合計		2,230	1,974	92	164	24

■山梨県の年度別認定件数

年度	総合化事業計画の認定件数				施設整備補助金利用状況
		うち農畜産関係	うち林産物関係	うち水産物関係	
平成23年度	11	10	1		6
平成24年度	5	3	1	1	2
平成25年度	3	3			1
平成26年度	1	1			
合計	20	17	2	1	9

■総合化事業計画の事業内容の割合①（平成29年4月11日現在）

（%）

	全国	山梨県
加工	19.7	30
直売	2.6	—
輸出	0.4	—
レストラン	0.3	—
加工・直売	68.6	55
加工・直売・レストラン	6.7	15
加工・直売・輸出	1.6	—

■総合化事業計画の事業内容の割合②

■総合化事業計画の認定事業者

名　称	補助金	６次産業化事業のテーマ（事業名）
㈲ぶどうばたけ		New　Gifts　勝沼菜果物語（自社産葡萄及び野菜を使った、ジュース、スパークリングワイン、ドライフルーツ等の生産）
農業生産法人㈲ マルサフルーツ古屋農園	ルネサンス 事業（県）	山梨県特産の百目柿を利用したあんぽ柿・枯露柿加工と新商品の開発及び販売事業
奥野田葡萄酒醸造㈱	ルネサンス 事業（県）	ワイン用葡萄等を使った新商品・ランチレストラン事業
農業生産法人㈱ ふじさん牧場	整備事業（国）	地域資源を活用した羊肉のブランド化及び６次産業化
農業生産法人㈱Kisvin	整備事業（国）	自社葡萄を使ったワイン生産事業
㈱ヴィンテージファーム	整備事業（国）	ワイン醸造加工施設新設事業及び食品加工商品施設新設事業
農業生産法人㈱ ハーベジファーム	整備事業（国）	やまといも冷凍加工

名　称	補助	６次産業化事業のテーマ（事業名）
農業生産法人㈱ くだもの厨房フクヨシ	整備事業（国）	牧丘の巨峰を使ったピューレならびにフルーツ商品の開発・販売とイートインカフェ運営による「牧丘フルーツブランド」の構築
農業生産法人㈱斎庵		富士川町の特産品であるすもも（貴陽）と洋梨の加工・直接販売事業
加賀美しめじ園		自社栽培のフレッシュきのこを活用した、新商品、新メニューの加工・販売事業
㈲勝栄　中村農場	整備事業 （国）	カスタードクリームの菓子製造と鶏肉のササミの部位を使用した総菜製造と弁当開発
南都留森林組合		混農林業と炭野菜のブランド化と販路開拓
農業生産法人 なごみファーム㈱		道志村特産のクレソンの粉末化とスイーツ商品の開発
農業生産法人㈱東夢	整備事業 （国）	山梨県産ぶどうを活用したレスベラトロール高含有の新商品の開発と販売

名　称	補助金	６次産業化事業のテーマ（事業名）
㈲忍沢養殖場		山梨産の大型ニジマス「甲斐あかね」を使った燻製等の商品開発と販売
農業生産法人 ㈲山梨フルーツライン	整備事業 （国）	新生産方式による無添加あんぽ柿の開発と通年販売
農業生産法人 ㈲ピーチ専科ヤマシタ		完熟果実と旬の野菜の品種ごとの味と香りにこだわった高品質ジェラートの開発と製造販売
ペイザナ農事組合法人	整備事業 （国）	不耕起及び草生栽培による自家栽培葡萄のみで醸造した高品質ワインの開発と販売
農業生産法人 ㈲清里ジャム	推進事業 （国）	スモールフルーツを活用した飲むこともできるジャム等の新商品創出と販売促進事業
大和葡萄酒㈱	整備事業 （国）	日本古来の葡萄品種を原料として大樽醸造した高品質なワインづくり

Ⅲ 佐藤農園の6次産業化

株式会社佐藤農園　概要

代表取締役：佐藤優一

ホームページ：http://www.satohfarm.com/

事業内容：農業（モモ、ブドウ、キウイ）

　　ジャム製造販売

住所：〒405-0002　山梨県山梨市東818

資本金：800万円

設　立：平成26年4月

出店先：銀座農園（有楽町東京交通会館）

　　YEBISU Marche（恵比寿ガーデンプレイス）

航空写真　２０００年６月撮影

モモ

ブドウ

キウイ

佐藤農園プレミアムジャム

佐藤農園が目指す商品開発の考え方

▶大企業がやらないことをやる

小さな市場を狙う

ニーズのない所へ売る商品をつくる

限定品、入手困難な原料を使う

採算は度外視する

▶大企業ではできないことをやる

失敗を恐れない

自社の既存品を否定する

従来の常識に逆らう

大胆な発想をする

佐藤農園が特に推しているもの

山梨県の幻の黄色い桃 『黄美娘（キミコ）』

山梨県で生まれた突然変異種

山梨のごく少数の農家でしか育てていないブランド桃

特徴

とても柔らかく甘さと食味が極上

香りも独特的でとてもフルーティー

佐藤農園の6次産業化

販売・加工・試食（破棄）に分けることで、新たな商品を作り上げることが出来る。
栽培
・お客様に試食をしてもらい、会話をすることで自然と購入に繋がる。
・単品多量であるからこそ、他店と差をつける。
佐藤農園
選果
加工
販売

佐藤農園の6次産業化

１次：モモ・ブドウ・キウイの栽培
２次：加工費製造（プレミアムジャム）
３次：販売（有楽町東京交通会館、
恵比寿ガーデンプレイス）

その他．農業インターンシップ（大学生・高専生、社会人）
農業体験（小中高対象）

ジャム作り工程表(ベリーA)

①原料の選別 → ②洗浄 → ③前処理 → ④煮詰め

↓

びんの洗浄
ふたの煮沸 ← ⑤充填 ← ⑥脱気・殺菌 ← ⑦倒置放冷

ジャム作り

甲斐の国マルシェ（新宿）

有楽町東京交通会館

農業インターンシップ

モモの収穫

ブドウの手入れ

台湾人の農業体験

フィリピン人の農業体験

Ⅳ農業ビジネスの未来像

農業ビジネス5つの成長戦略

①大規模化

②6次産業化

③高付加価値化

④B級品の活用

⑤輸出

未来像

Step.4 日本の農業が成長産業へと復活！

Step.3 現場から生まれたビジネスモデルが全国に波及

Step.2 売上拡大　雇用創出

Step.1 農業ビジネスの成功モデルを構築！

農業ビジネスに勝機あり